令和６年度　東京都立竹早高等学校　学校経営計画

校長　堀切　哲弥

１　目指す学校

１　教育目標

「自主自律」の態度を養い、「眞実一路」「清新溌剌」「協同親和」の精神を実践する人を育てる
「自主自律」　主体的に自己実現を図り、責任ある言動をとり、自分らしく生きる
「眞実一路」　真理を求めて意欲的に学び、幅広い知識と能力・適切な判断力・豊かな表現力を培う
「清新溌剌」　感性豊かな心と健やかな体を育み、生命・自然を大切にして、日々を生き生きと暮らす
「協同親和」　多様な存在を認め合い、力を合わせて平和で持続可能な社会を築く

２　目指す学校

⑴　確かな学力とともに、自己実現に努力する意志と生涯学び続ける意欲とを育む学校
⑵　自ら考え、課題を発見し、解決する力を育む学校
⑶　学校行事や部活動などを通じて、社会性や規範意識を育む学校
⑷　国際化や情報化が進む社会で、主体的に生きる資質や能力を育む学校
⑸　保護者および都民の期待と信頼とに応え実践する開かれた学校

３　スクール・ミッション

総合的な学力を身につける教育課程により、広い視野と教養を養い、探究学習、理数教育や国際理解教育などの特色ある教育活動を通じて「主体性・自律性」を伸ばし、創造力を発揮して新たな価値を生み出し、持続可能な社会の創り手として活躍できる人材を育成します。

４　スクール・ポリシー

⑴　グラデュエーション・ポリシー

教育活動全体を通して、次の①から③を育成する。

①　豊かな人生の実現・次代の社会を形成することに向けた諸課題に対応できる資質・能力
②　学習の基礎としての言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力
③　各教科・特別活動等における、知識及び技能、思考力・判断力、表現力、学びに向かう力

⑵　カリキュラム・ポリシー

①　２年次までは、各教科の基礎・総合科目を共通履修とし、総合的な学力を身に付けさせる。
②　生徒それぞれの多様な進路希望や可能性を引き出す。生涯にわたって学ぶ力の基礎となる「確かな学力」を育成する。

⑶　アドミッション・ポリシー

①　将来への目的意識を高くもち、志望する大学への進学の実現に向けて、意欲的に学習する努力を継続できる生徒
②　基本的な生活習慣を身に付けているとともに、社会の一員としての自覚をもってモラルやマナーを大切にする生徒
③　中学校での委員会活動や部活動等で優れた成果や実績があり、高校でもその経験を生かして中心となって活動する生徒
④　地域活動への参加など社会のためになろうとする態度を身に付け、自分自身にふさわしい生き方を探求する生徒

2　中期的目標と方策

中期的目標	方策
1　「わかる授業」、「主体的・対話的で深い学び」を通じて、確かな学力とともに生涯を通じて「学ぶ力」を育成する 2　教科指導等を通じて「書く力」やプレゼンテーション能力、情報リテラシー等の育成を図る 3　学習指導要領改訂に適切に対応する 4　「総合的な探究の時間」を核に、各教科での探究学習、教科横断的な学びを推進する 5　キャリア教育を充実させ、個々の高い進路志望の実現を目指す 6　特別活動の充実とともに「自主自律」を促す生活指導により社会性や規範意識の育成を図る 7　国際交流を通じて異文化や自国文化への理解を深めさせ、共生の視点を育成する 8　理数に興味のある生徒の能力を伸長するとともに、科学的に探究する能力や態度を育成する 9　学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点を育成する 10　持続可能な社会づくりに向け、自然環境や地域・地球規模等の諸課題について、生徒一人一人が自らの課題として考え、解決していくための能力や態度を育成する 11　積極的な学校開放と情報発信に努め、本校への理解を広げる 12　教育活動、保護者との連絡、広報活動,校務等においてICTの活用を推進する	①校内研修、授業評価等の活用 ②教科ごとの学習指導計画の充実 ③学力スタンダード及び学力調査の活用 ④自学自習の習慣と表現力の育成 ⑤新学習指導要領の趣旨を踏まえて、授業内容や評価方法等の改善・検討 ⑥進路・探究部と学年の連携により、「総合的な探究の時間」の新プログラムを実施 ⑦3年間を見通した組織的進学指導と進路相談の充実 ⑧高大連携の推進 ⑨休業期間の進学補習、土曜授業日の活用 ⑩竹早祭等、学校行事の質的向上の推進 ⑪規律ある授業態度、時間遵守の姿勢の育成 ⑫いじめの未然防止、体罰の根絶 ⑬教育相談（カウンセリング）体制の充実 ⑭学校生活のすべて（学業・学校行事・部活動等）に全力で取組める環境の整備 ⑮国際理解教育・海外帰国生徒教育の充実 ⑯英語教育研究推進校事業の実施 ⑰理数研究校事業の実施 ⑱美化・清掃活動の指導の徹底 ⑲SDGｓへの理解を深め、地域や外部団体と連携してボランティア等の社会貢献活動に取り組む ⑳保護者・同窓生との連携、外部教育力の活用 ㉑ＨＰ、学校見学会等情報発信力の強化 ㉒生徒の体力向上を図る取組の強化 ㉓デジタル推進委員会およびICTリーダーを中心に活用環境の整備、研修を実施

3　今年度の取組目標と方策

■教育活動の充実について
・主体的に学ぶ力、多様な人々と協働する力、正解のない課題に挑戦し新しい価値を生み出す力を育成する
・生徒に、「良い３C」（Chance[機会]、Challenge[挑戦]、Change[変化・成長]）のある学校とする
■学校における教職員の働き方改革について
○「教育活動の充実のためには教職員の心身の充実が重要である」との視点で取り組む
・質の高い教育活動の継続的な実施のために、事務的作業の効率化・合理化を推進する
・業務分担の不断の見直しを通じ、可視化・体系化・組織化を推進する

(1)　教育活動の目標と方策

	教育活動の目標	方策
教科指導	(1)授業第一主義の徹底 (2)「書く力」やプレゼンテーション能力の育成 (3) 到達目標に基づき指導計画を共有し確かな学力の定着を図る (4) 定期考査採点・分析システムを活用した授業改善 (5) 一人１台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びの推進 (6)自学自習の態度、習慣の育成 (7)「大学入学共通テスト」に対応した授業内容の改善	①チャイムで始まる授業の継続。「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の工夫。教科会の充実とＯＪＴによる教科指導力の向上。 １年次における具体的な学習方法の指導及び基礎学力の定着。 ②図書館利用の促進、レポート作成や意見発表等の機会増を図る授業の工夫。 ③教科主任会等を活用した、教科横断的な情報の共有と指導の体系化。教員相互の授業参観の実施による授業力の向上。 ④定期考査の採点結果データを分析し、指導内容、方法を検討。 ⑤Teams、ClassiNote等の活用の教員研修を実施。活用事例の共有。 ⑥宿題、週末課題の精選、定期考査の難易度向上、問題量の工夫等による家庭学習の習慣化。 ⑦大学入試に関する教員研修の実施。
進路指導	(1)補習・補講の充実 (2)模試データの活用等による進学指導力の向上 (3)進路相談の充実 (4)進路情報の発信力の強化 (5)キャリア教育の体系的な実施 (6)グローバルリーダーの育成	①夏期講習・直前講習等の計画的な配置と選択（受講）指導。 ②教科・学年・進路部の連携による模試対策、模試分析の実施。 ③科目選択の指導を通じた早期からの進路指導の充実。外部の教育力を生かして進路意識を育てる機会の確保、早期実施。 ④意識啓発のための進路相談会や保護者会等での情報発信。 ⑤「海外帰国生徒受入校」「理数研究校」「海外学校間交流推進校」の指定等も踏まえ、国際理解教育・理数教育・主権者教育・消費者教育や読書活動等の諸教育活動の実施。 ⑥日本の大学で学ぶ留学生と英語で行うワークショップ「Global Studies Program」とイギリス海外研修の実施。
生活指導	(1)人権尊重の意識の醸成を通じての豊かな人間関係の形成 (2)生徒の心身の健康支援 (3)都立高校生にふさわしい節度ある態度の育成 (4)学校行事の質的向上による学校生活の充実 (5)部活動の充実 (6)学習環境の整備・美化	①各種集会やホームルーム活動、アンケート等での、いじめ予防・生命尊重の指導の徹底。学校行事や宿泊体験活動を活用した、自他の尊重の精神、社会の一員としての責任感の育成。 ②スクールカウンセラーと連携し、配慮や支援が必要な生徒の情報共有とサポートを組織的に実施。 ③時間の遵守、挨拶の励行、安全通学指導、頭髪指導、遅刻指導及び自宅学習時間の確保に向けた下校指導の実施。 ④生徒の主体性を促す指導を通じての行事の質的向上。 ⑤部活動の充実により、参加率、競技力等を向上させ、自主自律の気風や社会性を育成する。 ⑥清掃指導の徹底による環境美化、ごみの減量。

その他	(1)募集活動の充実 (2)情報発信の充実確保 (3)施設設備の安全及び教育環境の維持向上 (4)ICT活用の強化 (5)教職員の働き方改革	①「学校見学会」「学校説明会」の参加人数の増加と内容の充実。 ②ホームページの細やかな更新と有効活用。 ③安全管理の徹底と補修・修繕等の計画的実施と緊急対応。防災教育の充実及び、緊急時の危機管理体制の周知徹底。学習環境の条件整備の継続。 ④生徒一人１台タブレット端末導入によるICT活用の推進。 ⑤業務の効率化を徹底することで、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図り、気力あふれる教育環境とする。

(2)　具体的な目標

ア　進学指導を一層充実させ、国公立大学等合格者数の増加を図る。

(ｱ)　難関国公立大学（東京大、京都大、東京工業大、一橋大、医学部医学科）合格者１０名。

(ｲ)　国公立大学合格者８０名

(ｳ)　難関４私立大学（早稲田大、慶応大、上智大、東京理科大）合格数１００名。

イ　進学指導の充実に向けた具体的な目標を次のとおりとする。

(ｱ)　年間を通じて自習室を設定し、開室時間を可能な限り 19 時までとし、利用者増を図る。

(ｲ)　大学入学共通テストおける、各科目得点率（全国平均の 110%以上）及び、7 科目受験者における８割以上の得点者 25%以上。

ウ　部活動への意欲を高め、学業とあわせて高いレベルで追求させるための目標を次のとおりとする。

(ｱ)　ガイドライン等をふまえて「効率的な活動」を意識させ、前年度を上回る競技成績を目標とする。

(ｲ)　各部活動で学習状況を集約し、年２回の指導を行う。

(ｳ)　部活動状況の報告等を、ホームページ等で年６回以上更新し、顕彰、奨励する。

エ　本校教育活動への理解を広げるための目標は次のとおりとする。

(ｱ)　募集活動への組織的取組により、中進対の倍率１．８倍。

(ｲ)　学校ホームページの更新回数、２５０回。

(ｳ)　進学のための保護者会や三者面談等の周知に努め、進路情報への肯定的評価を高める。